

# 第24号 地域医療連携室だより



発行: 2012/7/25

## 三河のつぶやき

時代の流れは今後もさらに加速し、化学技術も進歩していくのでしょうか。しかし人と人とのつながりは、今日のようなITの進んだ時代においても普遍的に必要なものと強く感じています。今回の会も玄々堂君津病院の永嶋理事長先生や、君津中央病院の海保先生、当院の加納、草薙、石井医師、各病院の看護師さん、地域連携担当者、全ての人が顔のつながりを求めた結果大成功に終わったのだと思います。手紙や電話では伝わらないことがあります。ぜひ積極的に病院内外の日ごろ接しない方との交流を持ってください。当室では引き続き施設を越えた、職種を超えた交流の機会をたくさん作っていきたいと思います。今回の会では副次的な効果として、医師以外の参加者が消化器外科、消化器内科医師の仕事内容や考えに触れることができ、大変感激したという声が上がっていました。



地域医療連携室 室長 三河 貴裕

### 第3回地域医療連携交流会開催のご案内 - 9月27日(木) 18:30 ~ K13ホライゾンホール -

今年は「みとり」をテーマに日頃の思いを語って頂き、ディスカッションしたり懇親会で交流を図りたいと思います。改めてご案内させていただきますがご出席頂けますようお願い致します。

### 皆がするfacebookというものを私もしてみんとするなり

先日、facebookなるものを始めてみました。どういうものかぼんやりと理解していたつもりだったのですが、これが想像を以上に良くできていて、ザッカーバーグのクリエイティビティに只々驚かされる日々です。何と言っても、過去の友人・知人を再び引き合わせることだけではなく、ボタン一つで、自分のコミュニティの関係性・繋がりを強化できる事が最大の利点だと思います。「自分のプライベートを載せるなんてどうかしてるぜ」という方もまだ多いと思いますが5億人のユーザー数が、現代で希薄になったと言われる人との繋がりを補完するツールになっている事を証明しています。私の心の隙間とスケジュールはfacebookによって埋められている日々になりました(笑)

龜太万年堂

## TOPICS

### 皮膚疾患・感染管理看護勉強会のご案内

## TOPICS

#### 皮膚疾患看護勉強会

- 【日程】 第1回 平成24年10月29日(月)
- 第2回 平成25年2月4日(月)
- 【時間】 18:45 ~ 20:00 \*軽食付
- 【会場】 安房地域医療センター2階会議室
- 【内容】 第1回 疥癬について
- 第2回 その他の皮膚疾患
- 【講師】 亀田総合病院 皮膚科部長 田中厚 医師
- 【締切】 第1回 平成24年10月15日(月)
- 第2回 平成25年1月21日(月)

#### 感染管理看護勉強会

- 【日程】 平成24年11月12日(月)
- 【時間】 17:30 ~ 19:00 \*軽食付
- 【会場】 安房地域医療センター2階会議室
- 【内容】 標準予防策と感染経路予防策
- 手指衛生の実習
- 【講師】 亀田総合病院
- 感染管理認定看護師 古谷 直子
- 【締切】 平成24年10月31日(水)

\*詳細・お申込は同封の資料をご覧ください

## 地域の先生方、医療関係のみなさま

リハビリテーション事業管理部 病院リハビリテーション室長 佐々木 祐介

はじめまして そしてこんにちは リハビリテーション室の佐々木祐介です。南房総リハビリテーション・ケア懇話会で、いつも大変お世話になっております。今回、コラムに記事掲載の機会を頂きありがとうございます。

新聞が「地域医療連携室だより」なので、連携について話してみたいともいます。

私が亀田総合病院リハビリテーション室で働き始めた1980年代後半、Googleで「地域医療連携」と検索してもヒットしなかったでしょう。今は急性期の亀田総合病院には、当時、入院して数年というリウマチ患者さんが普通に入院していました。「リウマチってこういう病気だよ」「車椅子はねえ、こういう形じゃあないと困るの」などと、私がリハビリテーションのいろはについて、患者さんから教えてもらっていた良き時代。全ての病院が治療も長期療養も外来も自己完結していました。

時は流れ、2000年の介護保険施行前後より「地域医療連携」という言葉は急浮上。特にリハビリテーションでは、急性期・回復期・維持期(地域生活期)と本来一貫のものをぶつ切りにされたため、「地域医療連携」という言葉は必然で発生。「地域医療連携」は医療以外も吸収し、そのもの「地域連携」と昇格。先日ググってみますと約10,100,000件と目もくらむ数字が出現するまでになりました。

私たちも2006年より南房総リハビリテーション・ケア懇話会を創設。医療にとどまらず、介護・福祉・行政・保健・教育なども包含して、顔の見える関係を創っていかようとしています。いずれすべてのネットワークは、この地域に住むみなさんが「安心して医療や多種サービスを受けられること」を真ん中に置いています。中心は一緒なので、がんやリハビリテーション、地域医療など各種ネットワークは、連携し補完することが可能と思います。全ての業界人が総合的に「地域連携」をし、この地を医療や多種サービスの桃源郷にして行きたいと思ひます。

## 長期療養型病院として



小田病院 理事長 小田 常人先生

皆様はじめまして。鴨川市内で開業しております、小田常人と申します。私は小学校6年生まで、鴨川で過ごし、約10年前に父の後を継ぎ戻ってまいりました。大学病院時代は消化器内科の医局に所属し、主に消化管疾患を専門とし診療及び内視鏡検査を行ってまいりました。当院は祖父が開業し、私で三代目となり、亀田総合病院とはとても長いお付き合いをさせて頂いております。現在、外来診療と60床の長期療養型病床を有しており、通所リハビリテーション、認知症対応デイサービス、サービス付高齢者住宅などの、介護分野にも力をいれております。これからますますの高齢化社会を迎えるうえで、急性期の治療を終えるも、寝たきり状態となった患者様の受け皿の不足が問題になってきております。今後も在宅診療、介護を含めて、こういった問題に他の施設とうまく連携しながら、最善の努力をしていきたいと思ひます。また、地域医療連携室の皆様には、患者様の紹介時などに、迅速に対応して頂き、非常に助かっております。今後もいろいろなお世話になっていくと思ひますのでどうぞよろしくお願い致します。



# 第1回南房総地域医療研究会ご報告



7月12日(木)玄々堂君津病院にて、第1回南房総地域医療研究会を開催いたしました。君津中央病院・亀田総合病院の「胃がん診療の現状」と題した講演や、その後の懇親会でも意見交換や顔を合わせての交流を持ち、とても有意義な時間をもつことができました。ご報告として、参加された方々のお言葉をご紹介します。

## 君津中央病院 地域医療センター副センター長 赤枝和子

### 第1回南房総地域医療研究会に参加して

亀田総合病院・玄々堂君津病院・君津中央病院は互いに「近くて遠い存在」で、本来は「遠くても近い存在」の関係が望ましく、医療の質を担保するにはそれぞれの医療施設の連携が必要であり、それが患者さまへのサービスやシームレスな医療へ繋がるの思いはあっても垣根が高く難しいと感じておりました。そんな折に、この3病院で連携推進を図ることを目的として亀田総合病院地域連携室長三河先生の音頭の下に南房総地域医療研究会が企画され、玄々堂君津病院の全面的協力を得て開催の運びとなり出席者80余名と、第1回南房総地域医療研究会は大盛況でした。名刺交換・情報交換・ご挨拶を頂いたり、今後の連携についてのご依頼とさまざまな形で顔つなぎができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

今回を機に互いの垣根を低くし顔の見える関係構築に努めることで、意思の疎通や互いの認識の是正が容易になり、連携のネットワークづくりへ発展・連携強化に繋がりがこれの3病院に留まらず、更にこの「輪」が他の施設や君津地域・安房地域へ広がればと考えます。

君津中央病院地域医療センターでも、南房総地域医療研究会が益々発展し実り多いものとなるよう君津地域医療機関との連携の窓口として、微力ながら院内外調整の役割を担っていきたくと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

## 玄々堂君津病院 地域連携室 看護師長 横山のぶ子

亀田総合病院の地域医療連携室長三河先生の発案で、7月12日(木)玄々堂君津病院の新しく増改築された4階大会議室を利用して、第1回「南房総地域医療研究会」が開催されました。当院にとって初めて他施設から多くの医師、コメディカル等をお迎えする会でした。君津中央病院と亀田総合病院の先生に「胃がん診療の現状」を講演して頂き、意見交換もでき、とても有意義な講演会となりました。懇親会では、「お互い直接顔を合わせて、気兼ねなく、気楽にお話をしよう」という趣旨から、永島院長は気軽で和やかな、楽しい懇親会を計画して下さいました。今まで電話や紹介状を通しての面識しかない中で、この企画を通し、顔と顔を向き合わせて見える関係が築きあげられたと実感しております。医師の自己紹介ではユニークなピーアールで場を和ませ、楽しい懇親会ができました。お互い理解することの第一歩はやはり「顔の見える関係作り」が一番大事であることを改めて痛感致しました。「連携の輪」が広がり、一層仕事においてもスムーズな対応ができるのではないかと考えます。最後に、総司会会で楽しく盛り上げて頂いた三河先生に感謝致します。今後も引き続き南房総地域医療研究会が継続され親睦が深められることに期待します。これからもどうぞよろしくお願い致します。

PS:会場外の受付においても親睦の輪は広がりました!

## 亀田総合病院 特命副院長、主任外科部長、内視鏡下手術センター長 加納宣康

### 有意義だった第1回南房総地域医療研究会

病診連携の重要性が強調される昨今ですが、2012年7月12日(木曜日)には、第1回南房総地域医療研究会が開催されました。これは君津、木更津、袖ヶ浦、鴨川、館山、南房総の各市をはじめ南房総地区の病院および診療所の職員が参加して開催されたものです。会場は玄々堂君津病院(永島嘉嗣理事長、院長)の新館大会議室を使わせていただきました。70人を超える多くの参加者でしたが、同院のりっぱな会議室のお陰で余裕をもって会を進めることができました。永島理事長および同院職員の皆様により感謝申し上げます。

今回の研究会は亀田総合病院地域医療連携室の室長:三河貴裕先生が中心になって企画して下さったものです。講演では、君津中央病院外科部長:柳澤真司先生、亀田総合病院外科部長:草薙 洋先生、同消化器内科部長代理:石井英治先生が、それぞれの施設における胃癌診療の現況について報告されました。当地における胃癌治療の現況がわかり、参加者に裨益するところ大であったと思います。

講演会の後には懇親会が開催されました。医師や看護師のみならず、介護福祉士、事務職員など、あらゆる職種の人が参加して、楽しく語りあうことができました。

日頃、患者さんを通じて情報を交換し合っているものの、直接お互いの顔を見て語り合う機会が少ないのが実情ですので、今回、このように食事をしながら仕事および仕事以外のことを話題に、和気藹々と語りあえたのは大変、楽しく有意義なことでした。

これからもこのような催しを続け、この地区の医療従事者がお互いの顔を知って交流できるようにし、地域の医療に一丸となって貢献できるよう協力していきたく思います。第2回の開催を楽しみにいたしております。

## 亀田総合病院 消化器内科 部長代理 石井英治

### 亀田総合病院胃癌診療の実際;内科の立場から - 胃癌診療地域連携に向けて

第一回南房総地域医療研究会におきまして、当科で行っている胃癌診療の実際、その中でも主に早期胃癌の内視鏡切除(内視鏡的粘膜下層剥離術:以下ESD)についてご紹介させていただきました。

内視鏡的粘膜切除術:EMRの時代はスネアで切除するという技術的制約から内視鏡的に切除できる癌は2cm以下に限定されていましたが、近年開発されたESD法により、リンパ節転移のリスクのないほとんどの早期胃癌がその病変サイズにかかわらず内視鏡的に切除することが可能となりました。当科では保険収載に先駆けて2003年より積極的にESDに取り組んできました。近隣施設からの御紹介も多数いただき、おかげさまで年々症例数は増加傾向であり、2012年7月現在で症例数は1000例を超えました。成績も非常に安定しており、ESDでの完全一括切除率は96%と全国でもトップクラスであります。偶発症も保存的にコントロール可能なものがほとんどであり、今や早期胃癌の治療はESDが中心であるといっても過言ではありません。しかし手術が早期胃癌の治療の中心であった時代と異なり、ESDの適応決定、切除範囲決定のためには詳細、精密な内視鏡診断が不可欠で、内視鏡医に対して以前よりも高い内視鏡診断能力が求められるようになりました。当科では術前、術後の内視鏡診断、病理診断との一対一の対比を重要視し、詳細、綿密な検討を行っています。今回は他院からご紹介いただいた4cm大の粘膜内癌の症例を通じて、実際の診療の流れ、術前術後のカンファレンスの内容をご紹介させていただきました。また早期胃癌の長期成績や高齢者、基礎疾患を有する患者様の対応、地域連携等含め今後の展望や問題点についてもお話しさせていただきました。

胃癌は早期発見すれば長期予後が非常に良好な癌種です。医療資源に限られた我が安房地域ですが、地域全体の医療機関がお互い協力し、胃癌の早期発見、早期治療にますます積極的に取り組んでいければ、と考えています。そういった意味で今回近隣の医療施設の医師、コメディカルがお互い顔の見える関係となるきっかけとなった本研究会の意義は大きく、今後地域連携がますます発展することを望んでやみません。

最後になりますが、このような発表の機会をくださいました関係各位に感謝申し上げます。

